

福岡県の世界遺産

福岡県には、世界遺産(世界中のみんなで大切に
していきべき宝物)として登録された遺産が2つ
あります。
実際に行ったりして、遺産について調べてみましょう。

「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群

沖ノ島には、古墳時代から平安時代はじめにかけての約500年もの間、航海の安全を祈って行われた古代のまつり(祭祀)の様子を伝える遺跡が残されているんだ。
沖ノ島を神聖なものとする伝統が古代から現代まで続いているこの遺産群は、世界的にも貴重な存在として、2017年7月に世界遺産に登録されたんだ。

沖ノ島 ※保護のため沖ノ島に行くことはできません。
大島 宗像大社沖津宮遙拝所 宗像大社中津宮
地島 大島神社
神楽港 宗像大社辺津宮 新原・奴山古墳群
世界遺産ガイダンス施設 海の道むなかた館
沖ノ島で見つかった金の指輪など8万点すべてが国宝になっているんだよ。
公式HP



行くことのできない沖ノ島を、はるか遠くから拝むための場所



沖ノ島でまつりを行った古代の豪族が作った古墳(お墓)

明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業

江戸時代の終わりから明治時代にかけて、日本は、西洋の技術や機械を取り入れて、約50年という短期間に、驚くべきスピードで産業を発展させたんだ。

「明治日本の産業革命遺産」は、日本の産業革命の大きな力となった重工業の遺産として、2015年7月に世界遺産に登録されたよ。

官営八幡製鐵所 日本事務所 JRスペースワールド駅から徒歩10分
遠賀川水源地ポンプ室 JR筑前垣生駅から徒歩20分 筑豊電鉄希望丘高校前駅から徒歩10分
三池炭鉱 宮原坑 西鉄バス「大牟田駅前」発 勝立方面「早鐘眼鏡橋」下車徒歩10分
三池港 西鉄バス「大牟田駅前」発 荒尾駅前方面「三川町1丁目」下車徒歩5分



1899年に建てられ、製鐵所の中心的な役割を果たした初代日本事務所



1910年以来、現在も動き続けている製鐵所の送水施設



重工業の燃料となる石炭を産出し、日本の近代化を支えた主力炭鉱



三池炭鉱で産出された石炭を運び出すためにつくられ、現在も産業港として使われている

※官営八幡製鐵所 日本事務所、遠賀川水源地ポンプ室は非公開施設です。眺望スペースから施設の外観を見学することができます。

